

学生のアクティビティ

お茶の水女子大学の学生は授業以外にも様々な場所で様々な活動をしています。

今回はその中でも「SCC-RA(新寮レジデント・アシスタント)」、「JOYnt TEA time」、「ボランティア活動」を紹介します。

SCC-RA (新寮レジデント・アシスタント) の活動 ……………

今年度より、SCC-RA(新寮レジデント・アシスタント) 制度が新しく発足しました。この制度は、学部1年次から2年間で寮経験があり、SCCの運営に積極的に協力する学部3年生をSCC-RAに任命し、その活動を支援するために奨学金を支給するものです。SCC-RAは1、2年生の寮生の相談に乗ったり、学修プログラム、交流プログラム等の企画・運営を、大学・寮生と連携しながら行います。SCC-RAに就任した4名に意気込みと今の気持ちを聞きました。



学修プログラム委員会

2年間の生活を通して

振り返ってみると、2年間SCCで生活したことが自分の成長と大きく関わっているように思います。1年目で初めて顔を合わせる同級生や先輩と共に暮らし、協調性や共同生活の難しさ、多様な文化・習慣を学びました。2年目では、頼る先輩方がいない中で、大学や東京の生活に関して何も分からない後輩達を引っ張っていかねばならない状況が、私の責任感を強くさせました。

また成長だけでなく、SCCは一生ものの出会いを与えてくれました。SCCでは違う学部学科の子達と交流できるので、学科内だけでは得られない知識や刺激が得られ、貴重な経験ができました。また、RAの皆は共にSCCを支えていくチームメイトというだけの存在だけではなく、悩みや愚痴も言い合える素晴らしい親友です。

SCCで暮らすことで一人暮らしや他の寮ではできない事を沢山経験することができ、この寮を大学生生活の拠点にできたことをとてもよかったですと思っています。これからもRAの仲間と協力しながら、とてもお世話になったSCCに恩返しをし、後輩達を支えていきたいと思っています。(文教育学部人文科学科 能村悠里)

2年間を振り返って

私がSCCに入寮してから、2年が経ちました。この2年間を振り返ってみると、私の帰る家はSCCでなくてはならなかったという結論に達します。この寮で過ごすことによってたくさんの人と出会い、時間を共有することでかけがえのない経験をすることができました。学修プログラムでの講演・発表、寮祭での他ハウスとの交流、自主企画としてのハウスでの企画、そして2年生時の寮の運営。どれも、私にとっては初めてのことはばかりでした。このようなことを通して、ハウスメイトをはじめとした寮生との交流が生まれ、自分の価値観や生活習慣を客観的に見ることができるようになり、「共生」することの楽しさと難しさ両方を肌で感じるようになりました。

そして何よりも、SCCに入って本当に良かったと感じることは、今でも仲良くしてくれる友達や先輩・後輩と出会えたことです。皆、所属や興味や出身はバラバラですが、SCCで共に生活したことで、お互いのことをよく知っている家族のような関係が生まれました。

これからはRAとして、寮生が住んでいることを誇れるようなSCCにするためにサポートをしていきたいです。

(文教育学部言語文化学科 三次好華)

RAへの意気込み

「やり残したことがある」というのが、RAになりたかった理由です。昨年も、OCHADAI GAZETTEにお茶大SCCのことを探り上げていただきましたが、そのとき、私はSCCのイベントについて書かせていただきました。SCCでは、さまざまなイベントが用意されていたり、企画・運営されていたりしていますが、いずれも発展段階にあります。共生とはそもそも何なのか、寮生がより多くの寮生と交流し学ぶためには何をすべきか、などの問題はもちろん、企画されたイベントが寮生の負担になってはならないし、寮生が満足するものにしなければならないという課題もあります。2年生のとき、寮生協議委員会の一員として、各イベントをどのように行っていくかを熱く議論し続けていました。何度も何度も話し合い、試しましたが、結局、最善策にはたどり着けなかったと思います。そこで、RAとなり、1・2年生のサポートをしつつ、今後のSCCをより快適かつ学びのある寮にできればいいと思いました。そして、RAとなり、3か月が経ちました。寮の現状とシステムの差異を鑑みて何点かの変革をしたり、RAとしてできる企画をしたり、鋭意活動中です。今なお、さまざまな葛藤や課題がありますが、その一つ一つに真摯に向き合っていきたいと思っています。

(文教育学部人文科学科 越智由紀子)

RAへの意気込み

私がRAとして一番やりたいことは、SCCの寮生との架け橋になることです。これまでSCCで暮らした経験を生かして、後輩たちが困っていることに相談にのったり、対処することができたら、SCCはもっともっと住みやすく楽しい寮になるのではないかと思います。お茶大の中では誰も経験したことのないこの制度を、どのようにして作り上げていくかは私たち次第です。これから苦労することも多いと思いますが、同じRAのメンバーと力を合わせて乗り越えていきたいと思っています。そして自分がこの寮でやりたいと思ったことにどんどんと挑戦していきたいです。私にとってこの寮で暮らしてきた2年間はあまりに快適で楽しく、「もう1年住むことができるのなら住みたい」と思ったのがRAに応募したきっかけでした。今この寮に住んでいる後輩たちが卒業するときに、同じように感じてもらえたらいいなと思っています。(文教育学部芸術・表現行動学科 高瑞貴)



自主企画委員会

JOYnt TEA time

5月27日(月)の17時から19時にマルシェで「JOYnt TEA time」という交流会を自治会とSTUDY FOR TWOの共催で行いました。お茶大で社会貢献に関わる活動をしている団体同士のつながりをつくり活動を活発にしたいという思いから企画し、当日は様々な学年・学部から30名弱が参加しました。はじめに参加者同士で自己紹介をした後、STUDY FOR TWO・オークンチュラン・夢のつばさプロジェクト・ほっとtea・共に生きるスタディーグループの5団体から説明を聞きました。その後食事を取りながら興味を持った団体から話を聞いたり、いくつかの団体と一緒にイベントを行うことについて話したりする時間をもちました。各団体がやっている活動は異なりますが、同じような分野に関心のある人が集まったからかとても会話がはずんでいました。2時間弱という短い時間でしたが参加者からは「名前だけ聞いたことのある団体の活動内容がわかった。」「他の団体とのつながりができた。」などの声を聞くことができました。「JOYnt TEA time」に参加してくださいました団体・個人



団体紹介

の皆様ありがとうございました。交流会でできたつながりを生かし、このような機会を定期的に持つことでお茶大で様々な団体や個人が活発に活動していくことを願っています。

また今回は社会貢献に関する団体・興味のある個人を対象とした交流会でしたが、自治会としては今後もより多くの学生に参加してもらえようような講演会などのイベントを企画していく予定です。ぜひ積極的にご参加ください。

(文責 文教育学部人間社会科学科 柳下明莉)



お料理を囲んでの交流

陸前高田市米崎小学校仮設住宅自治会の写真展に参加しました



2013年6月9日(日)に文教育学部の学生5名が、東日本大震災で大きな被害を受けた岩手県陸前高田市で、震災復興の取り組みとして企画された写真展にボランティアとして参加しました(写真左)。写真展は、米崎小学校仮設住宅自治会・女性会の主催によるもので、震災から2年間の生活をつづった3,000枚の写真を展示、希望の写真をプリントして配布しました。

グローバル文化学環では、陸前高田市米崎小学校仮設住宅で、



2011年10月から復興支援の学生ボランティア実習を継続して実施しており、今回の参加は8回目のものになります。「お茶っこカフェ」とよぶイベントをはじめ2年間のボランティア活動の様子もポスターをつくって掲示しました(写真右)。

(文責 広報チーム)

学生のアクティビティ